

## ネットワークソフトウェア技術とその応用論文特集の発行にあたって

ネットワークソフトウェア技術とその応用論文特集編集委員会

委員長 新津 善弘



スマートフォンの爆発的な人気によるトラヒックの増大やIoT (Internet of Things) などこれまでとは異なる多種多様なトラヒックの流入への柔軟な対応や、目まぐるしく変化するユーザーニーズへ応えるべく、迅速かつ低コストにサービスを実現するための研究が進められている。

一方で、ネットワーク制御に関しては、トラヒックデータ分析やネットワーク状態の可視化技術はもとより、そのような情報をもとに、より高度な制御を行うような動きも出てきている。また、通信端末もスマートフォンやタブレット端末が普及し、高度なネットワークサービス実現において、ユーザインタフェースだけではなく、データ収集・分析を含めた端末側のソフトウェアの役割がますます高まってきている。

このようなネットワークソフトウェア技術について、研究開発を促進するためには、学会が積極的に意見交換や情報提供を推進する場を設ける必要がある。前者の場として、2012年度まで、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会が主催する「ネットワークソフトウェア研究会」が20年にわたり、議論の時間を重視した異色な研究会として活発な検討がなされてきたが、昨年度より、第1種の「ネットワークシステム研究会」の下に第2種研究会として、新たに「ネットワークソフトウェア研究会」が発足し、活動を開始した。基本的に前身である時限研究会の趣旨である、まだ生まれたばかりの種としての研究や、結果を目指しつつ進捗の過程にある研究について、じっくりと発表時間よりも長い質疑、討論時間を設け、それぞれの研究の進展を支え、育てるような活動を進めてきた。

まとまった研究成果を広く研究者や技術者に共有する場として、本研究会としては、前身の時限研究会の時代より、定期的に論文特集を企画してきた。本特集は、新たに発足したネットワークソフトウェア研究会で発行する第1弾の特集であり、今後のネットワークソフトウェア技術、ネットワークを利用したサービスのあり方について幅広く提言すべく、ネットワークソフトウェアに関する研究開発をより一層促進させることを目的としている。8編の論文が投稿され、専門分野の編集委員、査読委員により厳正な査読、議論を行った結果、2編を再録した。また、招待論文として、今ネットワークソフトウェア技術者の間で最もホットな技術課題となっている、「SDN (Software Defined Networking)」と「NFV (Network Functions Virtualization)」をテーマとした論文を掲載している。

最後に、本特集の発行にあたり、貴重な研究成果をまとめ御投稿頂いた執筆者の方々、御多忙の中、厳正な査読を行って頂いた査読委員の方々、査読委員との調整、結果の取りまとめを精力的に行って頂いた編集委員各位、出版に向けて正確かつ円滑な事務処理を行って頂いた本会事務局の方々に深謝の意を表します。

にいづ よしひろ  
新津 善弘 (正員：フェロー) 昭51東北大・工卒，昭53同大大学院工学研究科修士課程了。同年日本電信電話公社 (現NTT) 入社。平15より芝浦工大・システム理工学部・教授。ユーザインタフェース高度化技術，ネットワークソフトウェア自動生成技術，コンテキスト・アウェアネス，アドホック/センサネットワークの研究開発に従事。博士 (工学)。情報処理学会会員，IEEEシニア会員。

ネットワークソフトウェア技術とその応用論文特集編集委員会

委員 幹事 委員	長 事 員	新	津	善	弘															
		末	田	欣	子	・	宮	本	大	輔	・	角	田	良	明	・	加	藤		圭
		太	田	理	・	荻	野	長	生	・	中	村	光	宏	・	水	野		修	
		小	島	英	春	・	北	形	元	・										
		三	宅	優	・	若	原		恭											